



たんごのせ、く (5がっ5か こどものひ)

参考文献「和」の行事えほん「春と夏の巻」 森なづき房

おとこのこのせいちょうをねがい、いわうぎょうじです。
そらにこいのぼりをおよかせ、いえのなかにはむしゃにんぎょうをかざって
ちまきやかしわもちをいただきます。

むしゃにんぎょう よろいかぶとをつけたむしゃすがたのものや、ものがたり・しばいなどにとうじょうする
れきしじょうのじんぶつのものであります。



かぶと 「かぶとがみをまもって、わざわいか
ぶりかかりませんように」とのねがいが
こめられています。



きんたろう あしからやまでそだち、くまと
すもうをとるほどのちからもちと
いわれたでんせつしょうねん。

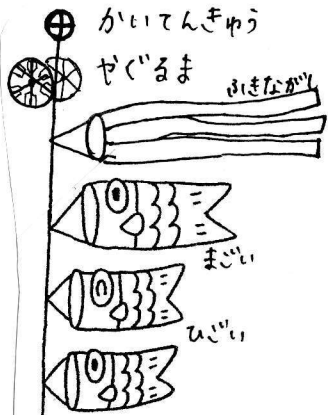
たんごのせ、くのおそなえ



かしわもち じょうしんこをむしてあずきあんをつみ、さらにかしわのはでくるんだもの。かしわのはは、しんめが
でないうちは、ふるいはが「おちないことから「かけいがたえないように」というねがいをこめて
つかわれ、えんぎものとしてかかせないおかしになりました。



ちまき ささのはでもちごめなどをつみ、いくさでしばってむしたりゆでたりしたもの。
むかしはちがやのはでまいたことから「ちまき」のながついたといわれています。



こいのぼり 「こいはてんにのぼりてりゅうになる」というちゅうごくのでんせつから、おとこのこが
つよくたくましくそだつようにとねがってかざられました。

しょうぶゆ



むかしからしょうぶやよもぎにはまよけのちからが
あるとされていました。たんごのせ、くにはおふるに
いれたりして、けんこうをねがいます。

